

介護役割意識の回答パターンと関連要因
—潜在クラス分析による検討—

○中西 泰子（相模女子大学）

1.目的・背景

本報告では全国家族調査 NFRJ18 データを用いて、介護役割についての4つの意識変数に対する回答パターンがどのように類型化できるのかを潜在クラス分析を用いて検討し、その結果をもとに夫方・妻方親双方への介護支援について人々はあるどのような枠組みから捉えているのか、その枠組みにはどのような類型があるのかを把握する。さらに、類型化された回答パターンがどのような属性と関連しているのかという観点から、それぞれの回答パターンの性質について検討する。それらの検討をとおして、若年・壮年男女の世代間関係に対する複数の認識枠組みの存在を提示したい。

親族研究では、経済的・非経済的支援が子から親へ、親から子へ提供される際に、妻方と夫方の間でどのようなバランスがとられているのか検討されてきた。夫方親への支援が妻方親への支援とどう関連しあっているのかということは、家族制度の変容や親族原理のありようを示すメルクマールのひとつとして捉えられてきたといえる。

本報告では、自分の父母と配偶者の父母への介護支援についての態度がどのように関連しあっているのかを検討するにあたって、人々の回答パターンの類型を把握することからはじめる。いわば、分析者が前もって妻方・夫方支援の組み合わせを指標化するのではなく、回答者の回答パターンからどのようなタイプの親子関係・世代間関係像が存在しているのかを帰納的に探っていきたい。規範という形で明確に意識的な形で成立していないとしても、回答者がどのような認知枠組みに基づいてそれぞれの項目に回答しているのかを探ることにつながるだろう。

2.方法

NFRJ18 調査データを用いて、有配偶で自分の親と配偶者の親がそれぞれ1人でも健在である28～62歳の男女を対象に、父母と配偶者父母それぞれへの介護役割意識（4項目）の潜在クラス分析を行う。親に対する介護役割意識の回答パターンを潜在クラスとして析出し、それぞれのクラスについて解釈を行ったうえで、クラス所属と性別、親同居などとの関連について基礎的分析を行う。

3.結果・結論

自分の親と配偶者の親への支援をどのように関連づけて認識しているのかを潜在クラス分析によって探った結果、双方の親への介護支援に関する意識は、4つの潜在クラスに分けられた。すなわち、回答の組み合わせは4通りに分類された。4つの潜在クラスは、自分の親の介護を優先させるタイプ（「実親優位主介護者型」「義親は自分以外の家族で介護型」と、どちらの親に対しても同じような（「手伝い中心」「施設介護」）対応をとるものに分けられる。さらに、潜在クラスの構成と性別との関連についてみると、①介護に対する積極的な姿勢がうかがえる「実親優位主介護者型」は女性に多い、②「義親は自分以外の家族で介護型」は男性に多い、③どちらの親にも同じように関わろうとする「手伝い中心型」は女性に多いというような傾向が確認された。

暫定的な結果に基づくものではあるが、介護役割意識の潜在クラスにみる性別構成やクラス所属と諸要因との関連性からは、性別分業体制を前提とした夫方優位から、性別分業体制を前提とした妻方優位への移行が示唆されているように考えられる。

（キーワード：老親介護、役割意識、性別分業）